



茨城森林管理署の林業現場に
視察訪問

茨城森林管理署へ林業現場視察に伺いました。

下刈りから伐採、市場、製材、そして最新のバイオマス発電まで林業の最初から最後まででの工程を見学させていただきました。

立木を伐採し、そのまま切った木を捆んで集積するという作業を1台で行い作業道までも作ってしまうフェラーバンチャヤ、枝払いや測尺や玉切りを連続で行うプロセッサなど数多くの高性能林業機械の勇姿に感動致しました。高性能林業機械の普及により、現場での作業を省力化し、短期間に終え

ることもできると感じました。斜面が多い日本では、これらの機械がより活躍しやすい環境づくりが大事だと思いました。



▲高性能林業機械に試乗！

続いて、宮の郷木材工業団地内には沢山の木材が美しい木目を見せながら積み上げられており、まさに圧巻でした。

製材工場においては、ほぼ無人で大量の集成材を自動生産できる技術に驚かされました。さらに、端材や木の皮等をバイオマス発電の燃料として使用している宮の郷木質発電所が同じ敷地内にあることにも感心しました。とても相性の良い組み合わせで、自給自足のスタンダード型になっていく期待を



▲製材工場で集成材が出来る様子を見学しました

抱きました。

茨城森林管理署の方の「林業は木を使うためではなく森林を作るためにある」というお話が印象に残っています。今回の視察でいかに木を無駄なく効率よく使うのか、その意識があるかないとでは何倍もの差がついてしまうことがわかりました。

近頃ではキャンブームから山を買う人が増えたときよく耳にしますが、山に手入れは欠かせません。技術の進歩により林業が益々身近な存在になると、そして林業従事者の方々の有り難さを多くの人に知ってもらいたいことから思いました。

そのためには、まず私自身ももっと発信していかなければと強く心に誓いました。

北海道遠征では
改めて森林の大切さに触れる

10月上旬に北海道へ5日間の遠征に参りました。

第44回全国育樹祭開催1年前記念イベントが北海道庁赤レンガ庁舎前にて開催され、私も記念育樹としてコウヤマキの根元への施肥とカウントダウンボードの除幕式に参加させていただきました。来年に苫小牧市の苫東和みの森で行われる全国育樹祭の大成功を心よりお祈り致しました。



▲来年の育樹祭へ向けたカウントダウンボード除幕式(令和2年10月9日)

そして、北海道において情熱を持って取り組まれている「木育」と森林サ―ビス産業について、北海道の先駆的な



▲積丹のクラフトジン蒸留所を訪れました

リーダー達からオンラインで様々なお話を伺い、木育や森林サービス産業の確かな明るい未来を実感しました。

この度の滞在は苫小牧にあるイコロの森を拠点として、最先端の森林サービス産業を体験するというものです。

まず今コロナ禍で注目されているワークショップを体験しました。

北海道の豊かな自然が溢れる非日常的な環境の中で受ける授業はとて新鮮で、緑のパワーのせいかな、不思議と勉強も捗りいつも以上に集中して授業を受けることが出来ました。

その他にも、積丹のクラフトジンの生産、苫小牧の林間放牧、馬搬、薪割り、焚火・ジビエや大沼公園の樹液等の森

の恵みを使ったBBQ、森のテントサウナなど、森での様々な取り組み(木育)を体験しました。

多面的な「木育」の考え方を学ぶ

今話題となっている「木育」について様々なことを見て感じて学ばせていただき、想像していたものとは何か違った1歩進んだ森林の産業だと感じました。

最初、「木育」という言葉を聞いた際、私は子供が木のおもちゃで遊ぶ姿を想像しましたが、北海道の木育は子供という概念からは想像もつかないジンの生産や、動物と触れ合うことなど当初のイメージとは全く違うものでした。

例えば、ホースセラピーでは人と森の間に馬という動物を置くことで緑と触れ合う機会が作られ、森林への理解が深まり、森林と共存する生活が出来上がります。

また森の幼稚園では子供達がただ自然に触れ楽しむのではなく、大人と一緒にに作業をします。木の伐採や運搬をしたり(馬の力も借ります)、急斜面の山を登り土を頂上に運ぶ山仕事という名の自然学習をするなどです。子供達が生き生きとその作業を楽しむ姿は、まさに「自然は先生」なのだと言っており、とても感銘を受けました。

そして私自身、自然が日常にある時間が経過するにつれて、一層木育についての認識が深まり、その木育をいつの間にか満喫していました。



▲森の中で子どもたちは元気いっぱい!

北海道の木育は山や森と関わったことがなく興味がないという人でも、動物好きであれば馬、お酒好きならジンなど、いろいろな観点から森林と関わることが出来ます。きっかけとなる入口が沢山あり、その入口に突入すれば、最後には森林にたどり着く、そんなプロセスが出来上がるように思いました。

目的は異なっても、森林と関わることによって、産業や経済の発展に繋がります、コミュニティを作り出し、良い木

育が生まれるのだと思います。このような広い視野を持った考え方が広まれば、森林と人との関わり方が変わり、将来の関係性までも変わってくるのではないのでしょうか。

今回の遠征を経て、改めて森林はなくてはならない存在であり、森と人は一体となって共にあるべきなのだということが、そして森林との関わり方はそれぞれでいいんだということも少しでも多くの方に知っていただきたいと思いました。森林に癒されるだけでなく、何かしらの付加価値を見出し、木育のような幅広い視点から様々な入口へ導き、無限に広がる終わりのない出口を目指して、たくさんの方を森林に導いてさしあげられる存在になりたいと思います。



▲豊かな自然の広がるイコロの森で、ホースセラピーを体験